

宇和島さんの魅力を伝えたい

宇和島さんさを楽しむ会

踊りで紡ぐ

宇和島の伝統と誇り



江戸時代、仙台藩との宴席の中で宇和島藩士がうたったことが始まりとされる、武士由来の全国的にも珍しい民謡「宇和島さんさ」。宇和島さんさを楽しむ会は、昭和30年代頃に民謡に合わせて踊られていた古い振り付けを復活・継承し、その魅力を広く伝えることを目的に平成25年に結成されました。以来、古い振り付けを知っていた数少ない一人で會長の三原 美鶴さんの指導の下、楽しく活動を続けてきました。平成28年からは人間国宝の能楽師 梅若実さんが考案した、扇を使った新しい振り付けでも踊っています。

メンバーは小学生からお年寄りまでと幅広く、天赦園やシロシタなどで練習しながら、観光客や地元の人たちへPRしています。さらに地域イベントへの参加や海外クルーズ船客との交流などを通じて、宇和島さんさの魅力伝えてきました。

海外観光客との交流を通して、代表の角田 真美子さんは「宇和島の素晴らしい文化は世界に通用する」と実感したそうです。また小学生のうちから踊り手や地方（唄、三味線などの演奏者）を学び、将来どこでも通用する教養として身に付けてほしいと語ってくれました。